

1. 経営成績

(1) 経営成績に関する分析

当中間期の業績

当中間期の世界経済は、サブプライム問題を発端とする米国経済の減速により不確実性が増しているものの、欧州においては、雇用や所得環境の改善などを背景に景気拡大傾向が持続しており、また、中国経済の高成長やASEAN諸国等でも緩やかな景気拡大を続けるなど、総じて堅調な結果となりました。

また、わが国経済においては、設備投資の弱さや雇用情勢に厳しさが見られるものの、輸出は増加を続け、個人消費が持ち直すなど、全体としては継続して回復しております。

自動車業界においては、原油を始めとした原材料価格の高騰など懸念材料を抱える中、国内販売では、好調であった軽自動車の前年に対して減少に転じ、また中越沖地震による操業停止もあり、前年同期を下回る結果となりました。一方輸出では、米国向けは、景気減速の影響から減少傾向にありますが、中東、メキシコ、ロシア等その他地域向け輸出台数の増加を背景に全体では増加傾向にあります。この結果、国内生産台数は、輸出が国内販売の減少を補う形となり、前年同期並みとなりました。

このような環境の中、当社グループは、『「使いやすさ」と「ぬくもり」に包まれた空間』をお届けするため、スマートキーやステアリングスイッチなどの新しい付加価値商品の拡販、シートベルトやシフトレバーなどグローバル市場での拡大に取り組んでまいりました。また、電波実験棟の増設やタイ子会社を拡張するなど、商品開発力の強化、生産体制の整備も着実に進めております。

当中間期の業績につきましては、

連結売上高	212,359百万円	前年同期比	22,916百万円増収(12.1%)
連結営業利益	14,930百万円	前年同期比	4,730百万円増益(46.4%)
連結経常利益	15,747百万円	前年同期比	4,456百万円増益(39.5%)
連結中間純利益	10,948百万円	前年同期比	3,680百万円増益(50.6%)

となりました。

a 事業の種類別セグメントの業績は、次の通りであります。

(自動車用部品事業)

自動車用部品事業はスイッチ類、シートベルト、キーロック、シフトレバーなどの拡販を積極的に推進した結果、売上高は209,990百万円と前年同期と比べ24,161百万円(13.0%)の増収となりました。

(一般電機部品及びその他の事業)

一般電機部品及びその他の事業は、売上高は2,369百万円と前年同期と比べ1,244百万円(34.4%)の減収となりました。

b 所在地別セグメントの業績は次の通りであります。

(日本)

拡販努力により、スイッチ類、キーロック、シートベルト、シフトレバーなどの販売が好調に推移したため、売上高は149,469百万円と前年同期と比べ10,086百万円(7.2%)の増収となりました。営業利益は人件費・経費の増加など、収益圧迫要因があったものの、増収効果、合理化努力や円安効果などにより、8,887百万円と前年同期と比べ2,154百万円(32.0%)の増益となりました。

(北米)

売上高は47,597百万円と前年同期と比べ6,985百万円(17.2%)の増収となりました。営業利益は、カナダドル高騰などの影響があったものの、増収効果などにより、1,295百万円と前年同期と比べ198百万円(18.1%)の増益となりました。

(アジア)

中国やタイ子会社の販売が好調に推移したことにより、売上高は29,192百万円と前年同期と比べ7,808百万円(36.5%)の増収となりました。営業利益は、増収効果などにより、4,156百万円と前年同期と比べ2,531百万円(155.7%)の増益となりました。

(その他の地域)

チェコ子会社の販売が好調に推移したことにより、売上高は13,893百万円と前年同期と比べ2,439百万円(21.3%)の増収となりました。営業利益は増収効果などにより、501百万円と前年同期と比べ88百万円(21.4%)の増益となりました。

通期の見通し

今後の世界経済は、米国において住宅市場の調整が続き景気減速局面が持続するものの、欧州では堅調な景気拡大が持続され、中国は引き続き高成長を維持するなど、全体的には順調に推移するものと予想されます。

また、わが国経済においても、対米輸出の回復の遅れや原材料高などが景気に影響を及ぼす可能性があります。中国を始めとして、新興各国や資源国向けの輸出が好調であり、引き続き景気の底堅さは維持されるものと予想されます。

自動車業界においては、国内販売は厳しい状況が続くものの、新型車投入による需要喚起が期待されており、輸出向けの生産台数は拡大が続くと思われ。また、海外市場においても全体的に堅調な景気に支えられ、順調に拡大するものと予想されます。

このような経営環境のもと、持続的成長企業を目指し、経営基盤の充実と総合力の向上をはかり、自動車部品専門メーカーとして、魅力ある製品を提供できる企業を確立してまいります。

通期の業績につきましては、連結売上高 4 3 7, 0 0 0 百万円、連結営業利益 3 3, 0 0 0 百万円、連結経常利益 3 4, 6 0 0 百万円、連結当期純利益 2 3, 4 0 0 百万円を見込んでおります。

(2) 財政状態に関する分析

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は 1 4 3, 7 0 5 百万円となり、前期末に比べ、2, 3 9 2 百万円減少いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が 2, 4 3 8 百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は 1 2 2, 7 6 1 百万円となり、前期末に比べ 8, 8 6 8 百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が 6, 5 7 7 百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は 2 6 6, 4 6 7 百万円となり、前期末に比べ 6, 4 7 7 百万円増加いたしました。

(負債)

負債は 1 0 7, 7 0 7 百万円となり、前期末に比べ 3, 8 5 4 百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が 2, 0 7 9 百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

純資産は 1 5 8, 7 6 0 百万円となり、前期末に比べ 1 0, 3 3 1 百万円増加いたしました。これは主に中間純利益の計上による利益剰余金の増加 1 0, 9 4 8 百万円と、配当金の支払による減少 1, 7 9 8 百万円等によるものであります。この結果、自己資本比率は前期末の 5 6. 0 % から 5 8. 4 % となりました。

キャッシュ・フローの状況

当中間期末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、3 7, 8 1 4 百万円となり前期末より 7, 9 2 0 百万円増加いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は 2 0, 0 1 6 百万円となりました。これは主に税金等調整前中間純利益 1 6, 0 4 4 百万円、減価償却費 8, 5 4 8 百万円等による増加と、法人税等の支払額 5, 0 1 4 百万円等による減少の結果であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は 1 0, 3 5 2 百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出 1 1, 5 7 9 百万円、投資有価証券の取得による支出 7, 5 1 0 百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は 1, 7 1 7 百万円となりました。これは主に配当金の支払額 1, 7 9 6 百万円等によるものであります。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期の配当

株主の皆様の利益を重要な経営方針の一つとし、安定的な配当の継続を基本に、業績及び配当性向等を総合的に勘案してまいりたいと考えております。内部留保資金につきましては、企業体質の一層の充実、強化並びに事業拡大のための投資に充当し、将来にわたり株主各位のご期待にそうべく努力いたしてゆく所存であります。

なお、会社法施行後におきましても、従来通り、中間及び期末の年 2 回の配当を継続する予定であります。また、ストック・オプションにつきましては、当社は現在、取締役、幹部社員、子会社取締役に対して付与しておりますが、これらは連結業績向上に対する意欲や士気を一層高め、企業価値の向上に貢献するものと考えております。

中間配当金につきましては、前中間期より 1 株当たり 9 円増配の、2 3 円とさせていただきますことといたしました。また、期末配当金につきましても、前期より 3 円増配の 2 3 円とし、通期では 1 株当たり 4 6 円とさせていただきます予定であります。